

は じ め に

当研究所は、島根県における公衆衛生の向上と増進を図るため、環境保健、地域保健に関する科学的・技術的な中核機関として「調査研究」「試験検査」「公衆衛生情報等の収集・解析・提供」「研修」を四本の柱とし業務を行っています。

特に、調査研究・試験検査業務においては、危機管理への対応が年々重要性を増してきています。保健の分野では2009年から2010年にかけてブタ由来の新型インフルエンザが全世界規模で発生し、機器整備、検査体制の構築に努力しましたが、高病原性トリインフルエンザA（H5N1）のヒト感染例が散発的に発生していること、昨年の新種のコロナウイルスの出現などから、今後も引き続いて新興・再興感染症による健康危機管理への備えが求められています。また、食中毒の原因となる病原菌の一斉迅速検査方法の開発等地道な研究も継続して行っています。環境分野では、ここ数年宍道湖・中海における原因不明の異臭やアオコの大量発生に伴う異臭苦情等が続きました。いずれも原因物質を特定することができましたが、発生の防止にはまだ至っておらず、引き続き宍道湖・中海等をはじめとする県内湖沼・河川の水質の推移とその要因に関する研究を続けています。また、大気汚染物質の高濃度事象についての詳細な分析などの分野においても着実に成果をあげています。

今後も危機管理への対応を的確に行い、県民のニーズに応えられる試験研究機関として貢献できるよう努めていきます。

本報告書は以上の危機管理対応や試験・検査、調査・研究活動の成果に関して平成23年度の実績をまとめたものです。是非ご一読いただきご意見・ご提言をお寄せいただくとともに、引き続き当所の業務についてご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

平成25年1月

島根県保健環境科学研究所

所 長 大 城 等